

“授業のユニバーサルデザイン化(UD化)”でめざす、

全員が「わかる！」主体的・対話的で深い学びの授業づくり

熊本県立御船高等学校

1 新しい時代をたくましく生きる～これからの学びと授業のUD化～

新しい学習指導要領が公表され、これからの学校教育の方向性が示されました。Society 5.0とも呼ばれる、AIやIoTがもたらす全く新しい社会を生きる生徒に、必要となる資質・能力を身に付けさせるため、高校の授業も変わろうとしています。その新しい学びの姿が「主体的・対話的で深い学び」です。また、多様な個性と能力を持つ生徒が入学する現状の中、個々の生徒を理解し、必要な支援を行うことも高校の大切な役割です。本校では昨年度まで、アクティブラーニング型授業の実践やICTの活用を中心に授業改善に取り組んできました。今年度はさらに全ての生徒にとって「わかる」「できる」「さらに次を学びたい」授業を目指して「授業のUD(ユニバーサルデザイン)化」を推進することになりました。幸いなことに隣接する御船中学校では昨年度までの2年間、御船町教育委員会の指定を受けて授業のUD化の研究を進め、実践されています。御船中学校や御船町教育委員会等、外部との連携も図りながら授業改善に取り組んでいくことにしました。



2 まずは教師の学びから～研修をとおり「授業のUD化」の理解を深める～

「授業のUD化」を推進するにあたり、はじめに昨年度まで御船中学校の校長を務められ、現在、御船町の総合教育アドバイザーを務めておられる吉見和洋先生を講師に招き、職員研修を実施しました。吉見先生からは具体的方法として、教室の基礎的環境整備や、本時の目標を明示し授業の山場を作る、資料を視覚化・焦点化・共有化する等々多くのアドバイスをいただきました。



吉見先生による講演

次に、本校職員が実際に御船中学校を訪問し、各教科の授業を見学させていただきました。御船中では、本時の目標や授業の流れが明示され、授業の後半に山場が設定されるなど、全ての授業がルーティン化されており、個人・ペア・グループによる活動が効果的に盛り込まれ、まさに吉見先生の講話の内容が具現化されていました。

職員研修や授業見学等を通して、「授業のUD化」の必要性とその効果、実際のやり方等を理解した上で、各自の授業のUD化のイメージを掴み、夏休み中にはそれぞれのモデルを作成し、2学期からの実践につなげます。今後は、生徒のアンケート(授業評価)等も実施し、成果を検証しながら授業の確立に努めます。

例年、本校で実施している10月の授業研究週間には、県立教育センターの先生方や、各教科のスーパーティーチャーを招いての研修も計画しています。

「授業のUD化」を柱とした本校の授業改善の取組は、まだまだ始まったばかりですが、全ての生徒にとって「意欲を喚起する授業」「学びが定着する授業」の実現に向けて、全職員で取り組んで参ります。

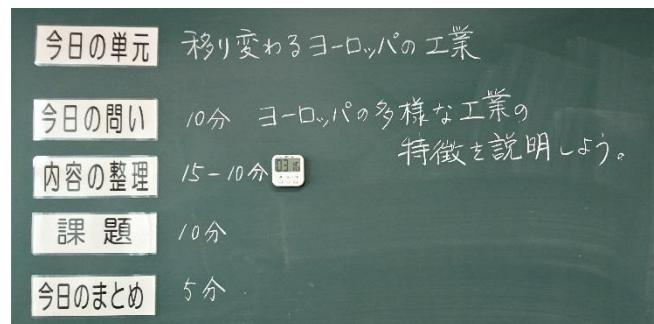
「授業のUD化」研修計画

5月	校内研修1 講演「ユニバーサルデザインの視点に基づく授業づくり」 講師 御船町総合教育アドバイザー 吉見和洋氏
6月	授業研究週間①（御船中学校の先生の助言） 御船中学校の授業見学（1回目）（全職員が参加）
7月	校内研修2 「授業のUD化モデルづくり」
9月	「授業のUD化」による授業スタート 第1回授業のUD化に関する生徒アンケート（授業評価）
10月	授業研究週間②（教育センター、スーパーティーチャー、 御船中学校からの指導・助言、保護者参観） 御船中学校の授業見学（2回目）
1月	校内研修3 「各教科の実践発表」 第2回授業のUD化に関する生徒アンケート（授業評価）

3 いよいよスタート！～生徒と共につくる御船高校の「授業のUD化」～

「授業のUD化」のポイントはいくつかありますが、生徒たちが毎回の授業を落ち着いて、安心して受けられるように、①授業の規律を大切にすること ②学習の見通しを示すこと ③視覚的な理解を支援すること、④共感・共有できる学習活動を取り入れること ⑤活動を見取り、共に振り返ることなどが大切になります。

そこで本校の授業のUD化では、「始めと終わりの挨拶の徹底」「学習の流れと目標（目当て・問い）を示す」「今日のまとめを明確に行う」ことから統一して実践を始めました。全校集会では、生徒たちに授業のUD化による新しい授業のスタートを説明しました。すると生徒たちも月間生活目標を「生徒×先生＝授業のUD化～一緒に授業をつくっていこう～」と掲げてくれました。御船高校は今、教師も生徒も一体となって新しい学びに向かっています。



1時間の授業の流れと目標を見通す



カードや図版を使い視覚的にわかりやすく



生徒同士や教師との対話や協力で深まる学び